

令和4年度 小金井市立南小学校 授業改善推進プラン【小学校】

1 授業改善の方針

○基礎学力の向上を図る。(ICTの活用)
○「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを図る。
○授業のユニバーサルデザイン化を意識する。

2 児童の現状分析

(1) 全国学力・学習状況調査・まなびポケット学力調査

国語	○思考・判断・表現に関しては平均を超えている。しかし、知識・技能は平均を下回っている。反復練習をしたり、既習事項を活用したりする活動が必要である。
算数	○基礎基本の定着に差がある。また、既習事項を活用したり、応用問題をすすんで解こうとしたりする意欲や思考力にも差がある。

(2) 児童の実態

1年生	○どの教科に対しても意欲的に参加する児童が多いが、理解力には差があり、学習を進めるのに配慮を必要とする。
2年生	○基礎基本は定着している児童は多いが、思考・表現に関しては、「何をどのように表現したらよいのか」分からない児童が多く、課題がある。
3年生	○新しい学習に意欲的な児童が多い一方で、個々の中で得意な教科、苦手な教科がはっきりし始めている。
4年生	○既習事項を生かして学ぼうとする児童が多い。相手に分かりやすく書いたり伝えたりすることに課題がある。
5年生	○学習課題に対して意欲的に取り組もうとする児童は多い。問いや事象に対して自分の考えを分かりやすく表現することを課題とする児童も多い。
6年生	○学習に対して前向きな児童が多く、課された課題には意欲的に取り組むことができる。自分なりの新たな考えを見出したり、表現したりすることに課題がある。また、学力差も目立つ。

3 各教科等における授業改善の視点

国語	低	○表や図にしてまとめるなど、視覚で分かるまとめ方をして、内容の大体を捉えられるようにする。 ○感想を表現できるようにするために、モデル文を提示したり、今まで経験したことを振り返ったりする。
	中	○必然性を感じるゴールを設定し、ヒントとなる言葉、キーワードを意識させて主体的に読み取れるようにする。 ○自分の意見や考えを書く機会を必ず設定し、表現力を育てる。
	高	○ICT機器を有効的に活用し、互いに意見を見合ったり交流したりできる場を設定する。 ○自分の考えを文章で分かりやすく表現できるように授業で書く機会を必ず設定する。
社会	中	○資料から分かることや考えられることを発表し合う時間を設け、学習していく問題をクラス全体で共有できるようにする。 ○地域の人々の協力や努力を理解し、自分たちにできることを考え、地域の一員としての意識をもたせる。
	高	○資料や具体物、ICT機器を活用し、視覚的に学習課題を把握できるようにする。 ○資料に示されている事柄の全体から細部までの傾向を捉えたり、背景を予想したりする時間を設ける。 ○自分の考えをもつ時間、考えを共有する時間を確保する。
算数	低	○内容を理解して自分の考えをもてるようにするために、問題の内容を、半具体物や図を使って表す活動を通して視覚化する。
	中	○具体物などを用いて、活動・経験をを通して量感を養ったり、問題場面を想起したりできるようにする。
	高	○既習事項をもとに、問題解決に向けた見通しをもたせたり自分の考えを見出したりできるようにする。また、ICT機器を活用し、習熟の時間を十分にとる。

理科	中	○考察の型を提示し、自分の言葉で表現できるようにする。 ○実験や観察の後に動画教材を活用し、理解を深められるようにする。
	高	○グループで考察する時間を設け、一人一人が考えをより深められるようにする。 ○ICT 機器で、学習の理解を視覚的に補助したり、学びあいのツールとして活用したりする。
生活	低	○気付きの着眼点を明確にして、体験学習や学習の振り返りを行う。 ○ICT 機器を使用し、実際に観察できないものもくわしく調べられるように工夫する。
	中	○音楽の良さを味わい、感じたことを ICT 機器、拡大楽譜など活用し言語化し、共有できるようにする。 ○新たに学ぶ単音、短いフレーズ、大切な箇所を全員リレ形式、スモールステップで行い定着させる。
音楽	高	○音楽の良さを味わい、感じたことを ICT 機器、拡大楽譜など活用し言語化し、共有できるようにする。 ○新たに学ぶ単音、短いフレーズ、大切な箇所を全員リレ形式、スモールステップで行い定着させる。
	低	○身近な題材を用意し、豊かな発想ができるようにするとともに、道具の基本的な使い方を指導し、活用できる場と時間を設定する。
工作	中	○げんこのうやノコギリの安全管理の面で個人のチェックリストを作成し、安心安全の授業にする。
	高	○より一層、ICT を活用することで、メディア作品を制作するなど、表現の幅を広げる。
家庭	高	○調理実習や裁縫の実践経験を工夫して行い、日常生活に必要な技術を養う。
体育	低	○簡単な運動や遊び方の工夫ができるように友達同士で動きを見合い、よいところを共有する時間を設定する。
	中	○児童の思考力を促すため、学級の実態に合わせてゲームのルールを工夫する。 ○振り返りの時間に次回の課題を意識させ、チームや全体で共有する時間を設ける。
	高	○ICT を活用して自分の運動を客観的に観て課題を明確にできるようにしたり、学習における技能の変化や成長を捉えたりできるようにする。
外国語	中	○ゲームや歌などの活動を多く取り、表現に慣れ親しむようにする。 ○関わり合う活動を通し、友達と楽しみながら外国語に親しむようにする。
	高	○「新しい表し方を知る→発音する→ゲームで力を高める」を繰り返す行う。 ○表現を身に付けるために、ALT と短い文章を使ったやり取りや単語の練習を繰り返す行う。 ○授業の最後に学習の振り返りを行い、学習の成果を明確にする。
	低	○終末で自分の生活を振り返り、気を付けていきたいことやなりたい自分について考える場を設定し、道徳的心情・態度を育てる。
道徳	中	○終末の時間で、今後なりたい自分やよりよい生き方について考える時間を十分にとり、道徳的心情・態度を育てる。
	高	○道徳的価値を考えやすいように、ICT 機器や写真資料等を用いて導入や教材の提示方法を工夫し、判断力・実践意欲を育む。
総合	中	○見付けた課題を調べたり聞いたりして学んだことから自分にできることは何かを考え、振り返る時間を十分にとる。 ○本やインターネット、実体験など様々な方法で調べ、活用できるようにする。
	高	○資料提示の工夫や実体験を踏まえた学習を計画することで、児童自身が学びを深める課題を設定したり事後学習につなげたりできるようにする。 ○外部講師として、保護者や企業、ボランティアを招き、地域と連携した活動を取り入れる。